

## 1 はじめに

本学級の児童は、自由な発想で活動できる図画工作科の学習が好きである。自分の思いを意欲的に表現しようとしたり、友達とかかわって楽しそうに活動したりする姿もみられる。しかし、なかには、自分の表現に自信がもてず、積極的に工夫してつくりだそうという意欲が十分ではない子供もいる。つくりたいものが思いつかなかったり、つくったものに自信がもてなかつたりして、つくりだす喜びを味わうことができていないようにみえる。さらに、作品を鑑賞すると、「○○ちゃんは、すごい」のような、作品のよさというより、自分と比較するだけの感想を書く子供もいる。

そこで、作品をつくる前に、アイデアをワークシートにまとめたり、友達と話し合ったりする時間をとることで、想像力をふくらませながら様々な表し方に気づき、安心して自分のつくりたいものをつくることができるようにさせたいと考えた。

また、鑑賞の活動では、作品に対する自分の思いを伝える場面を設定した。友達の作品のよさを感じ取り、そのよさを伝え合うようにすることで、自分の作品のよさにも気づき、次の活動への意欲も高まると考え、実践した。

## 2 指導の実際

### (1) 題材1 板野南小学校のキャラクターをつくろう 〈A表現(2)工作・B鑑賞〉

本題材は、児童一人一人が板野南小学校のキャラクターを考え、紙粘土のもつ特性を生かし、思いついたものを工作に表す活動である。つくったキャラクターは板野南小の玄関に展示し、来校者や全校生に見てもらうことにした。

①目標 ア 粘土のもつ特性を生かし、板野南小のキャラクターをつくる活動を楽しむことができる。

イ 粘土のもつ、多様な形に表せる特性を生かし、板野南小のキャラクターについて想像力を働かせ、表したいことをイメージし、考えることができる。

ウ 自分の考えに合わせて、針金を芯材に使ったり、材料を加えたりして、工夫してつくることができる。

エ 自分や友達の作品のよさや工夫について、感じたことを話し合い、表現の特徴をとらえることができる。

#### ②指導計画

第1次 南小のキャラクターを考え、簡単なアイデアスケッチを描く。・・・1時間

第2次 様々な材料を加えて、南小のキャラクターをつくる。・・・2時間

第3次 自分の作品について発表したり、友達の作品を鑑賞したりする。・・・2時間

### (2) 題材2 伝え合いたい大切なことを、ポスターに表そう 〈A表現(2)絵に表す・B鑑賞〉

本題材は、「人権ポスター」として、人権尊重のために自分が伝えたい大切なことを考え、絵に表す活動である。かいた人権ポスターは、11月に行う人権集会・発表会の時に体育館の壁に展示し、全校生や保護者に見てもらうことになっている。

①目標 ア 意欲的に伝え合いたい内容を考え、伝え合いたい大切なことをポスターに表すことに取り組むことができる。

イ 伝え合いたいことやわかり合いたいことのイメージが表れるような形や色の構成や表し方などを考えることができる。

ウ 伝え合いたいことに合わせて、絵や文字の形や色の構成、表現方法を工夫して絵に表すことができる。

エ 自分や友達の作品のよさや美しさを楽しむとともに、お互いの表現の意図や特徴をとらえることができる。

## ②指導計画

第1次	ポスターで伝え合いたいことを話し合う。	・・・1時間
第2次	形や色，構図を工夫して絵に表す。	・・・7時間
第3次	自分の作品について発表したり，友達作品を鑑賞したりする。	・・・2時間

## 3 結果と考察

### (1) 自分の考えを言葉にしたり，絵に表したりするワークシートの工夫

題材1，2より前に行った「砂」や「針金」を材料にした活動では，完成後にワークシートに感じたことや考えたことをかいた。また，それを発表する時間もとった。しかし，製作前に，材料に触って感じたことやつくりたいもののアイデアをワークシートにかいた方が，様々な発想が出やすいのではないかと感じた。

題材1，2では，製作に入る前に，ワークシートをかく時間と書いたことを発表する場を設定した。自分の考えやイメージを言葉にすることで，作品を製作しやすくなったようだ。また，何度もワークシートを確認しながら製作している子供もおり，ワークシートが自分の思いを作品に反映することに役立ったようだった。

### (2) 話し合い，かかわり合う場の設定

題材1では，自分の考えるイメージを発表し，みんなの考えたイメージを聞く時間をとったことで，「同じやなあ。」「そうかあ。」「もっと付けたそう。」などのつぶやきがあった。みんなの意見を聞いたことで，自分のイメージに自信をもち，さらに少し工夫を加えて自分らしい作品をつくらうと取り組むことができたように思う。

題材2では，人権ポスターで何を伝えるかを話し合った。「人権」について考え，発表し合うことを通して，人権ポスターで何を伝えたいのかが明確になったように思う。ポスターの構図をグループで話し合う機会をとると，「それいいなあ。」「こっちの子は，こんな顔がいいんとちゃう。」などと友達にアドバイスして，一緒に考える楽しそうな姿がみられた。作品に自分の思いを入れるとともに，友達のアドバイスを参考にして作品をつくることができた。

### (3) 自分の思いを伝え，友達のよさも伝え合う場の工夫

題材1では，友達作品を鑑賞する時間に，自主的にお互いの作品の工夫や思いを聞くことができた。また，友達が書いてくれた「あなたの作品のいいところ」を1枚にまとめることで，とても大切な鑑賞シートができあがった。それを，次の活動の最初に見ることで，次の活動への意欲を高めることができたように思う。

題材2では，グループの中で作品に対する自分の思いを伝え合う時間をとった。思いを聞き取った友達が，その作品を学級全員に紹介する場を設定した。グループの中で友達の思いを聞くときには，「ぼくもそう思ったわ。」「気持ちかわかる。」というおもわず共感の声をあげる子供もおり，友達作品の思いを自分の思いに重ねながら，感じ取ることができていた。

## 4 おわりに

私は，これまで図画工作科の授業で，子供に自分の思いを考えさせたり，話し合わせたりする機会をあまり設定できていなかった。しかし，今回の取り組みで自分の思いを作品に表したり，作品のよさを感じ取ったりするためには，製作前にワークシートにイメージをかかせて見通しをもたせたり，子供同士が作品に対する自分の思いを話し合ったりすることが重要であると実感できた。図画工作科が得意だという子供と得意でないという子供が，協力しながら最後まで意欲的に活動する姿を見ることができた。これからも子供同士のかかわりの中で，自分の思いをこめた作品をつくりだす喜びを味わったり，友達作品にこめた思いを感じ取ったりすることができる実践に取り組んでいきたい。